

2年国語 課題③

枕草子 学習プリント1

2年()組()番 氏名()

解答

国語2(教科書P 32)『枕草子』について、以下の課題に取り組みましょう。
このプリントは授業でも使用します。

(関心・意欲・態度)

課題

- ① 教科書P 32『枕草子』原文を読む
- ② 教科書P 32『枕草子』現代語訳を読む
- ③ 作者・出典を確認する
- ④ 語句の意味を調べる(便覧を用いる)
- ⑤ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す
- ⑥ 教科書P 32『枕草子』原文を音読する

単元目標

- ・情景を想像しながら、すらすら『枕草子』を音読できる。
- ・作者の四季に対するもの見方や感じ方と、自分が感じる四季の趣を比較できる。

この課題の目標

- ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことで、すらすら音読できる。
- ・語句の意味を確認することで、情景を想像することができる。

■ 作者・出典を確認する (教科書P 33を見て、空欄に当てはまる語を書く)



作者 (清少納言)

平安時代中期の歌人、(清原元輔)の娘。
一条天皇の(中宮定子)に仕えた。

出典 「枕草子」

清少納言の(随筆)。作者が宮仕えをしていた頃、見聞きしたことや、季節の感想、人生観などを折に触れて書き記したもの。

■ 便覧(P 42 ～)古語辞典を見て、古語の意味を調べ、書く

語句	意味
あけぼの	明け方
やうやう	次第に・だんだん
さらなり	言うまでもない
をかし	趣深い・風情がある
いと	たいそう
あはれなり	しみじみとした感じだ
まいて	まして
はた	さらにまた
つとめて	早朝
つきづきし	似つかわしい
わろし	(比較して)よくない・劣っている

■ 線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書く (便覧P 38 参照)

① やうやう白く……

ようよう

③ 闇もなほ、……

なお

⑤ うち光りて行くもをかし。

おかし

⑦ 飛びいそぐさへあはれなり。

とびいそぐさえあわれなり

② 山ぎは、……

やまぎわ

④ 螢の多く飛びちがひたる。

とびちがいたる

⑥ 山の端いと近うなりたるに、……

いとちこうなりたるに

⑧ はた言ふべきにあらず。

いうべきにあらず